

イヌガシ

Neolitsea aciculata (Blume) Koidz.

クスノキ科

石川県カテゴリー

絶滅危惧 I 類

国カテゴリー

該当なし

選定理由

県内ではただ1箇所のみ生育する。全国的分布域から貴重である。(現況:RO)

形態

幹は暗褐色で、若い枝は緑色。葉は細くてやや薄く、互生して、葉柄をもつ。葉身は長楕円形で無毛、先はやや突出し、基部は長くさび形に狭まり、3本の葉脈がはっきりとし、裏面は白色を帯びる。葉は枝先に車輪状に集まる。

国内分布

本州(房総半島以西)～南西諸島に分布する。

県内分布

中能登区のヤブツバキクラス域に分布する。

生態など

高さ15m余りの常緑小高木である。ヤブツバキクラス域の標徴種である。カゴノキと同様のモミ林の構成種として生育している。開花期は3～4月。葉腋に径5mmほどの赤色の花を密生させる。雌雄異株で果実は楕円体で長さ約8mm、10月ごろ黒紫色に熟す。

生育環境

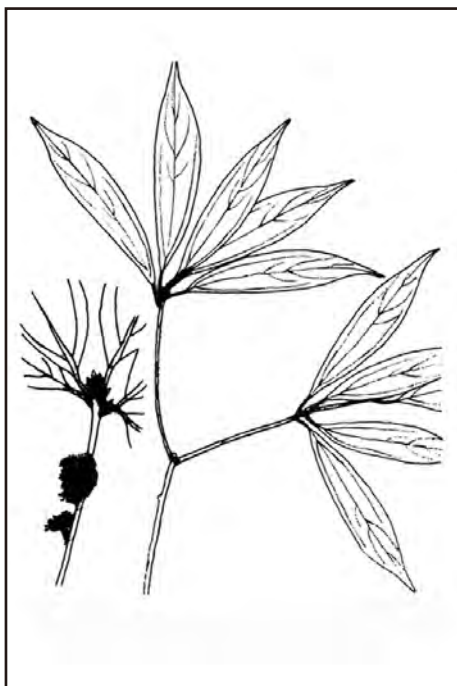
標高20～30mの急斜面のモミ林に生育する。生育地は高木層の樹冠によって光がさえぎられて、やや暗い。

危険要因

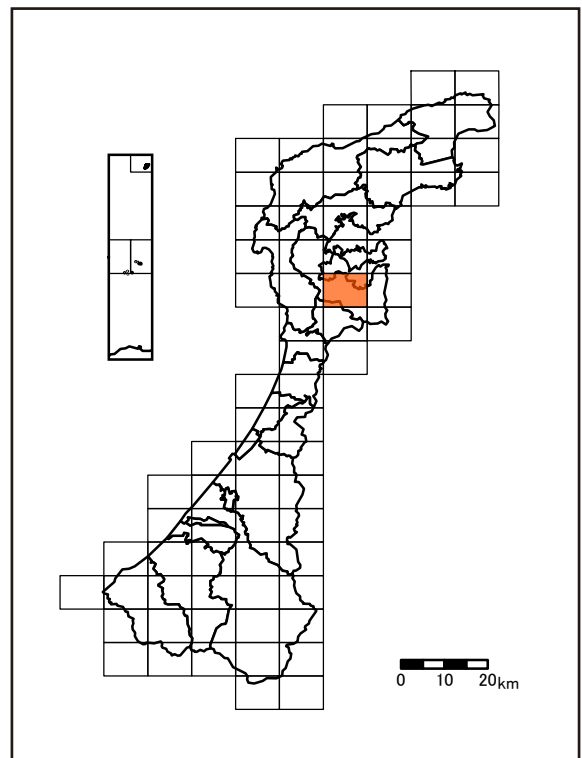
森林伐採、産地局限。

特記事項

生育地は特定植物群落に指定されている。分布の北限。



小牧(1987)より引用



県内の分布